



追加型投信／内外／株式／インデックス型 設定日：2022年3月4日

eMAXIS Neo

水素エコノミー／コミュニケーションDX

*資料内において、eMAXIS Neoシリーズを構成する13ファンドをまとめて各ファンドと呼ぶことがあります。

各ファンドが連動をめざす「Kensho社」の株式指数のご紹介 S&P Kensho Hydrogen Economy Index / S&P Kensho Enterprise Collaboration Index

*資料内において、eMAXIS Neoシリーズを構成する13ファンドが連動をめざす指数をまとめて各指数と呼ぶことがあります。 (全て配当込み、円換算ベース)

2022年3月4日、AIが銘柄選定する指数に連動をめざす「eMAXIS Neo シリーズ」に「eMAXIS Neo 水素エコノミー」と「eMAXIS Neo コミュニケーションDX」を新たに追加いたしました。本資料では、ファンドが連動をめざす指数についての概要や指数構築における特色等をご紹介します。

※本資料はeMAXIS Neo 水素エコノミー／コミュニケーションDXについてご紹介するために概略を記載したものです。そのため、ファンドの商品性、リスク、お申込みメモなどについては投資信託説明書（交付目論見書）をご確認いただく必要があります。

>> 指数を構成する各テーマについて

水素エコノミー

(S&P Kensho Hydrogen Economy Index)

水素をエネルギー、燃料として活用する経済活動全般を指し、水素の生産、貯蔵や輸送に関連する製品の製造などを行う企業が含まれます。

多くの国や地域において、脱炭素社会に向けた取り組みが進められる中、水素は燃焼時に二酸化炭素を排出しない二次エネルギーとして関心が集まっています。



※画像はイメージです。

指数の値動き



(出所) Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成 (期間) 2017年5月16日～2022年2月28日、日次 (取得可能な最長期間)

コミュニケーションDX

(S&P Kensho Enterprise Collaboration Index)

オンライン会議ツールやチャットアプリ、スケジュール調整システムなど、企業でのコミュニケーションを円滑にする製品・システムやクラウド上の統合プラットフォームなどを提供する企業が関連します。

関連システムや技術の進歩が、コミュニケーション領域の革新に繋がることが期待されます。



※画像はイメージです。

※DX：デジタルトランスフォーメーション

指数の値動き



eMAXIS Neoシリーズが連動をめざす指数

(全13指数 (配当込み、円換算ベース)、2022年3月4日時点)

	宇宙開発 S&P Kensho Space Index
	遺伝子工学 S&P Kensho Genetic Engineering Index
	ロボット S&P Kensho Robotics Index
	バーチャルリアリティ S&P Kensho Virtual Reality Index
	ナノテクノロジー S&P Kensho Nanotechnology Index

	ドローン S&P Kensho Drones Index
	自動運転 S&P Kensho Autonomous Vehicles Index
	ウェアラブル S&P Kensho Wearables Index
	フィンテック S&P Kensho Democratized Banking Index
	電気自動車 S&P Kensho Electric Vehicles Index

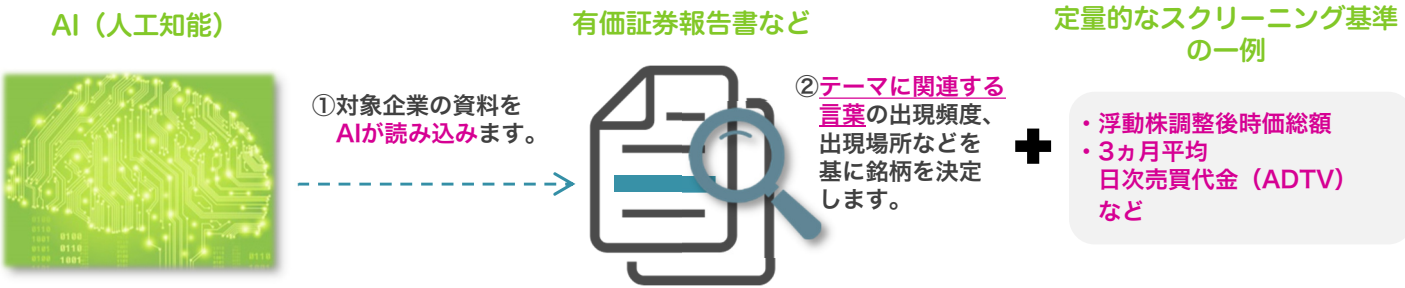
	クリーンテック S&P Kensho Cleantech Index
	水素エコノミー S&P Kensho Hydrogen Economy Index
	コミュニケーションDX S&P Kensho Enterprise Collaboration Index

新たに2つのテーマへの投資機会をご提供

※指数の説明については、P6のファンドの特色部分もご確認ください。

>> 銘柄群から、テーマに該当する銘柄をどのように選定しているの？

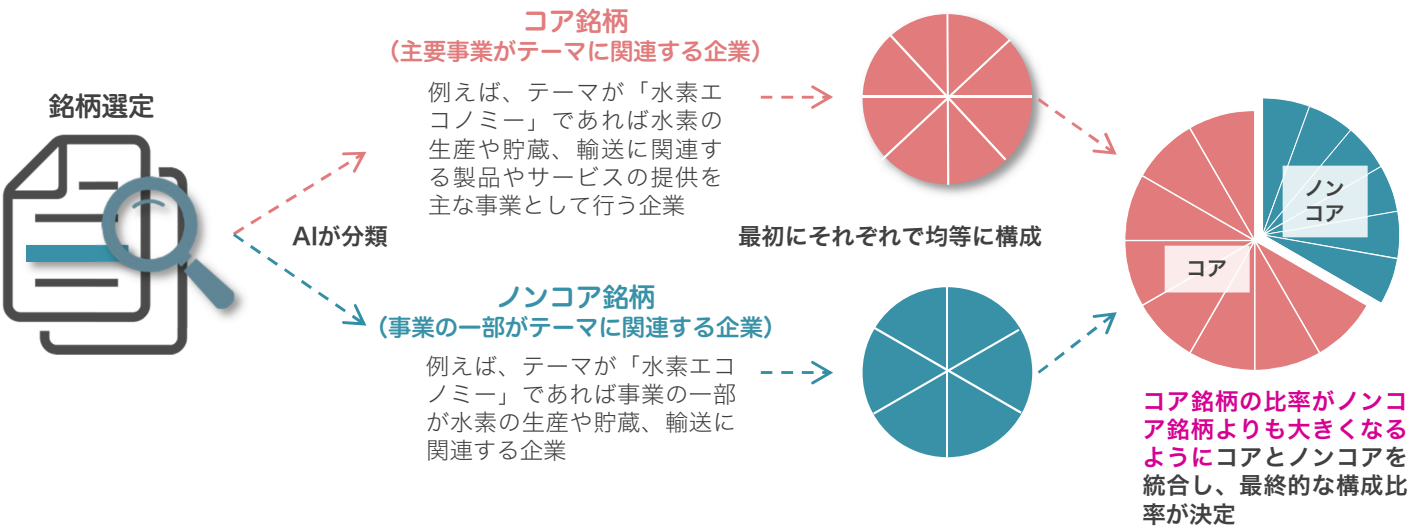
有価証券報告書など、企業の開示資料をAI（人工知能）が読み込み、テーマに関連する言葉の出現頻度、出現場所などを基に選定します（年1回）。また、時価総額・売買代金の基準による銘柄の絞り込みも行われ、極端に時価総額の小さい銘柄や売買の活発でない銘柄は除外されます。



*上記は指数構築手法の一部を簡略化して記載したものであり、実際とは異なる場合があります。

>> 銘柄の構成比率はどのように決定しているの？

銘柄選定の際、AIが、テーマに関連するビジネスが主要事業である「コア銘柄」と、そうでない「ノンコア銘柄」に分類しており、それぞれの分類において均等比率で構成されます。S&P500株価指数など、時価総額に応じた構成を行う時価総額加重型とは異なります。



*上記は指数構築手法の一部を簡略化して記載したものであり、実際とは異なる場合があります。

>> 指数を開発した「Kensho社」ってどんな会社？

データ分析・機械学習・自然言語処理など、AIの技術を強みとする米国のテクノロジー企業です。2013年に創業され、2016年～2017年にかけてAIやフィンテックの分野で多数の受賞歴があります。主要事業である市場分析サービスは、米ゴールドマン・サックスなど多くの金融機関が導入しています。現在は、S&P500株価指数などを有する米国の大手指数提供会社S&P Global Inc.の100%子会社です。

KENSHO

Kensho（ケンショー）は、
禅用語の「見性」に由来。

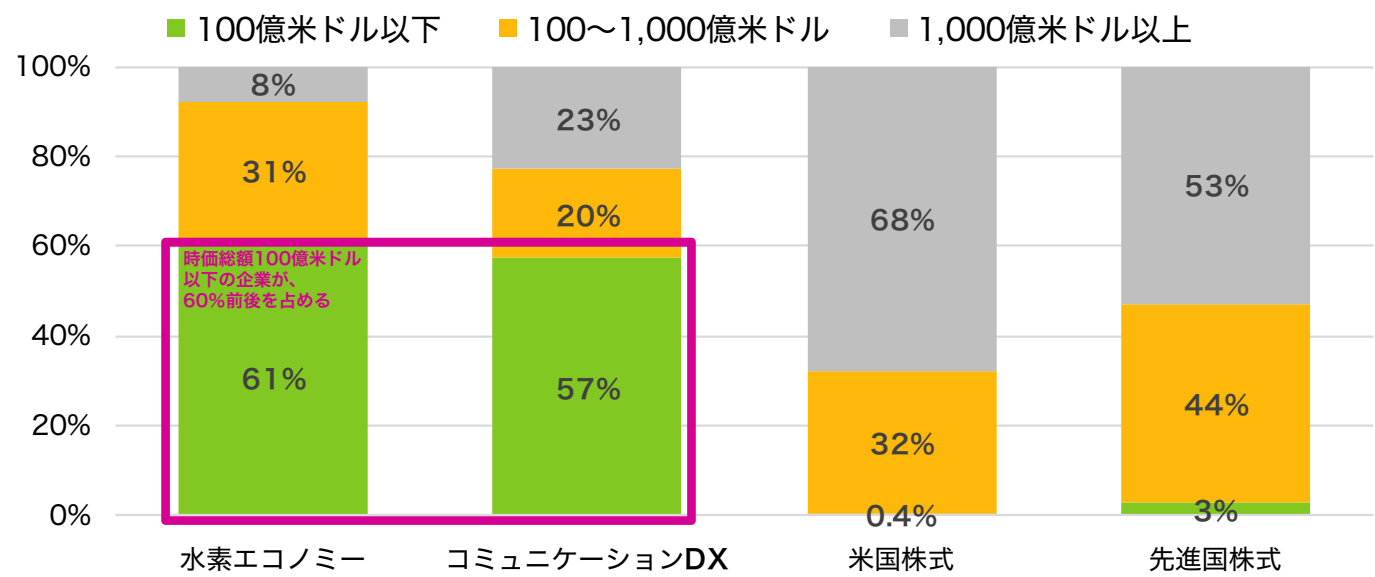
※当該評価はKensho社のご紹介のため、過去の受賞歴等を掲載したものであり、ファンドの評価に直接関係するものではありません。

>> 指数を構成する銘柄の特徴は？（水素エコノミー、コミュニケーションDX）

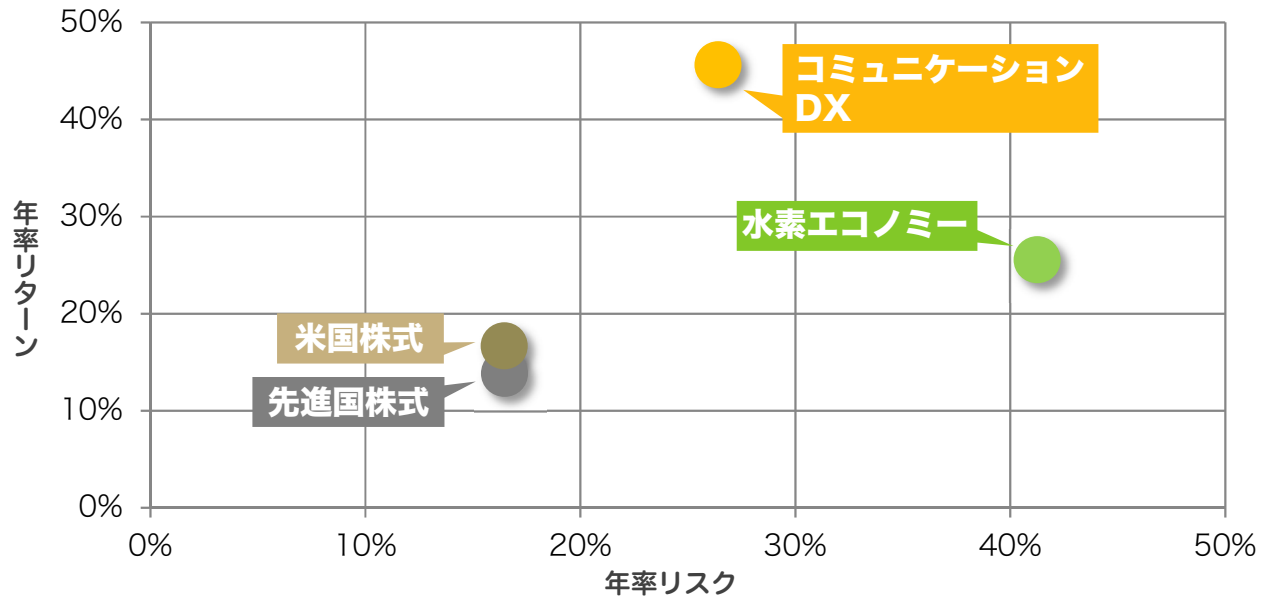
指数の特徴の一つとして、時価総額が小さい（100億米ドル以下）銘柄の占める割合が高いことが挙げられます（図表1）。水素エコノミーやコミュニケーションDXに関連する市場は成熟しきっておらず、将来性や高い成長性が期待できる革新的テーマを牽引する企業への投資機会が存在するとも言えると考えています。一方で、大型株中心に投資する場合に比べ、価格変動・信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があることには留意が必要です。

水素エコノミー、コミュニケーションDXの各指数とも、米国株式や先進国株式といった指数に比べてリスク・リターンともに高い水準となったことが確認できます（図表2）。

【図表1】 指数における時価総額の水準別 構成比率



【図表2】 年率リスク、年率リターン（円換算ベース）



■水素エコノミーはS&P Kensho Hydrogen Economy Index（配当込み、円換算ベース）、コミュニケーションDXはS&P Kensho Enterprise Collaboration Index（配当込み、円換算ベース）、米国株式はS&P500株価指数（配当込み、円換算ベース）、先進国株式はMSCI ワールド インデックス（配当込み、円換算ベース）を使用 ■米国株式市場における時価総額の比率やリスク・リターンの特徴を示すことを目的としてS&P500株価指数を、先進国株式市場における時価総額の比率やリスク・リターンの特徴を示すことを目的としてMSCI ワールド インデックスを使用。

■上記は指数を使用しており、ファンドの運用実績を示すものではありません。■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。 ■計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。※最終面の「本資料で使用した指数について」、「本資料のご利用にあたっての注意事項等」を必ずご覧ください。

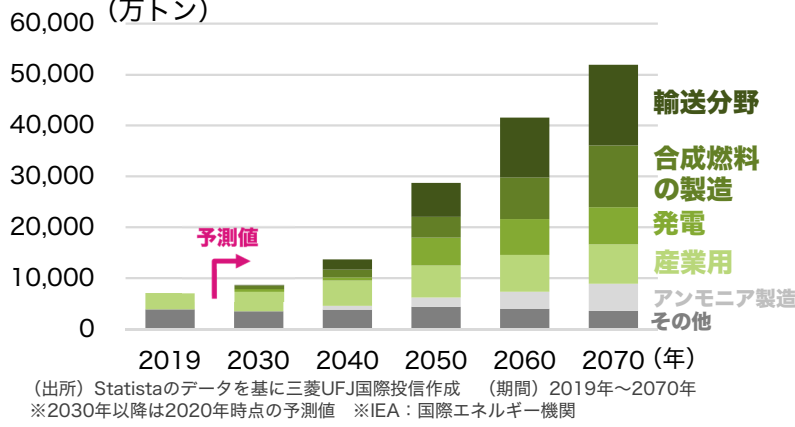
>> 各投資テーマの成長性は？

水素エコノミー

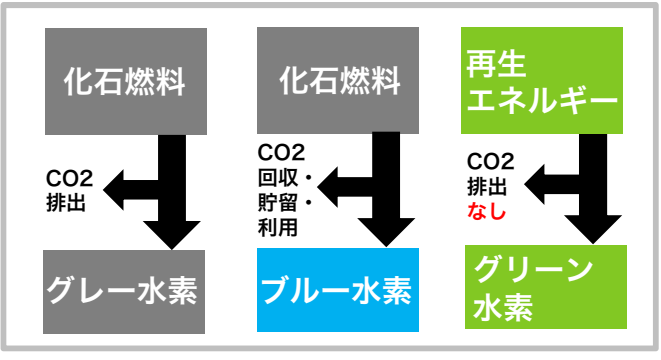
各国・地域で脱炭素社会に向けた取り組みが進む中、今後数十年にわたり世界において輸送分野（燃料としての利用）や合成燃料（二酸化炭素と水素）の製造など、さまざまな用途で水素需要が高まることが予測されています（図表1）。一口に水素と言っても、製造過程に基づく分類がされることが一般的です（図表2）。特に、再生エネルギーを用いて製造する「グリーン水素」をいかに低コストで利活用するかが今後の課題として挙げられています。水素開発の取り組みが進む米国カリフォルニア州では、グリーン水素の需要の高まりにより2050年までに数百の水素製造拠点設立が必要となると分析*がなされるなど、今後水素の製造や貯蔵、輸送など関連する技術を保有する企業が重要な役割を果たすことが期待されます。

*カリフォルニア州の取り組みは、JETROやカリフォルニアエネルギー委員会（CEC）の公開情報（2020年6月公表のロードマップ）等を基に三菱UFJ国際投信作成

【図表1】 世界における水素需要予測
（IEAによる持続可能な開発シナリオベース）



【図表2】 製造過程でみた水素分類の一例



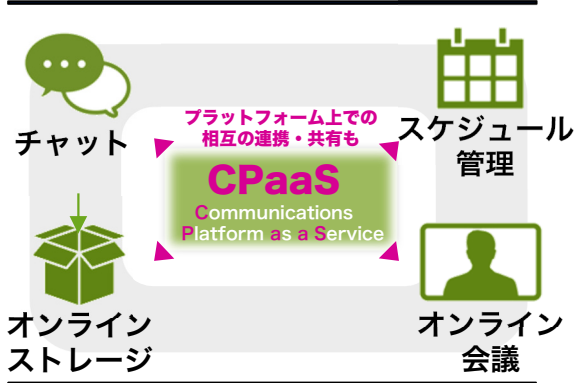
※上記はイメージ図です。すべてを網羅するものではありません。

※ファンドにおいては、S&P Kensho Enterprise Collaboration IndexのテーマをコミュニケーションDXと呼びます。

コミュニケーションDX

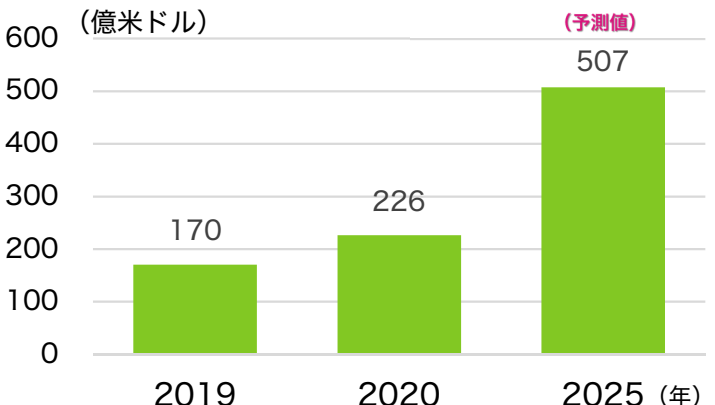
オンライン会議ツールやスケジュール管理アプリなど、業務を円滑に行うためのツールやシステムをクラウド上のプラットフォームとして統合すること（＝CPaaS、図表1）で、企業におけるコミュニケーションの変革をもたらすことが期待されます。この背景の一つに、2020年の新型コロナウイルス感染拡大以降、多くの企業が在宅勤務を導入し、業務に必要なコミュニケーションをオンラインで行う需要が高まっていることが挙げられます。企業のニーズ変化に伴い、世界におけるコミュニケーションの関連アプリケーションの市場規模は、2020年の226億米ドルから2025年には507億米ドルへの成長が予測されています（図表2）。

【図表1】 コミュニケーションDXに関連するシステムやアプリケーションの一例



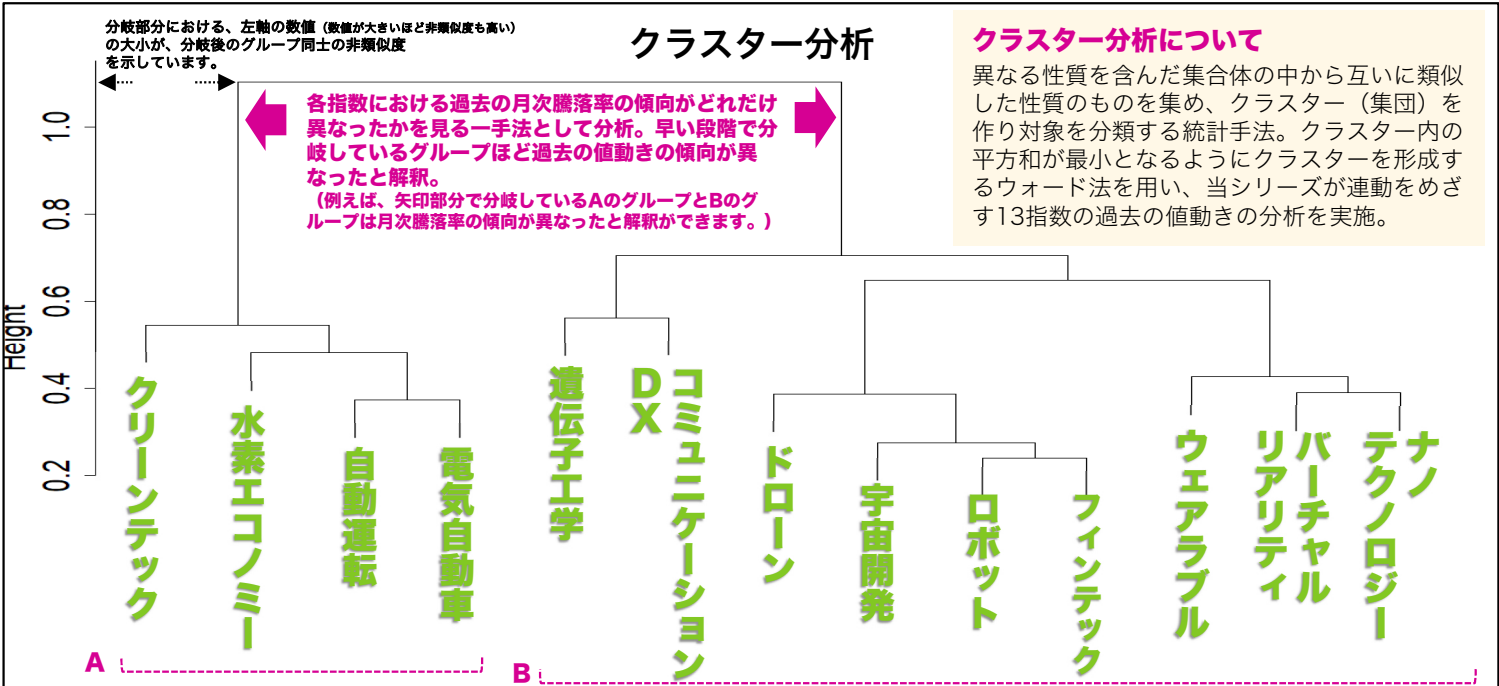
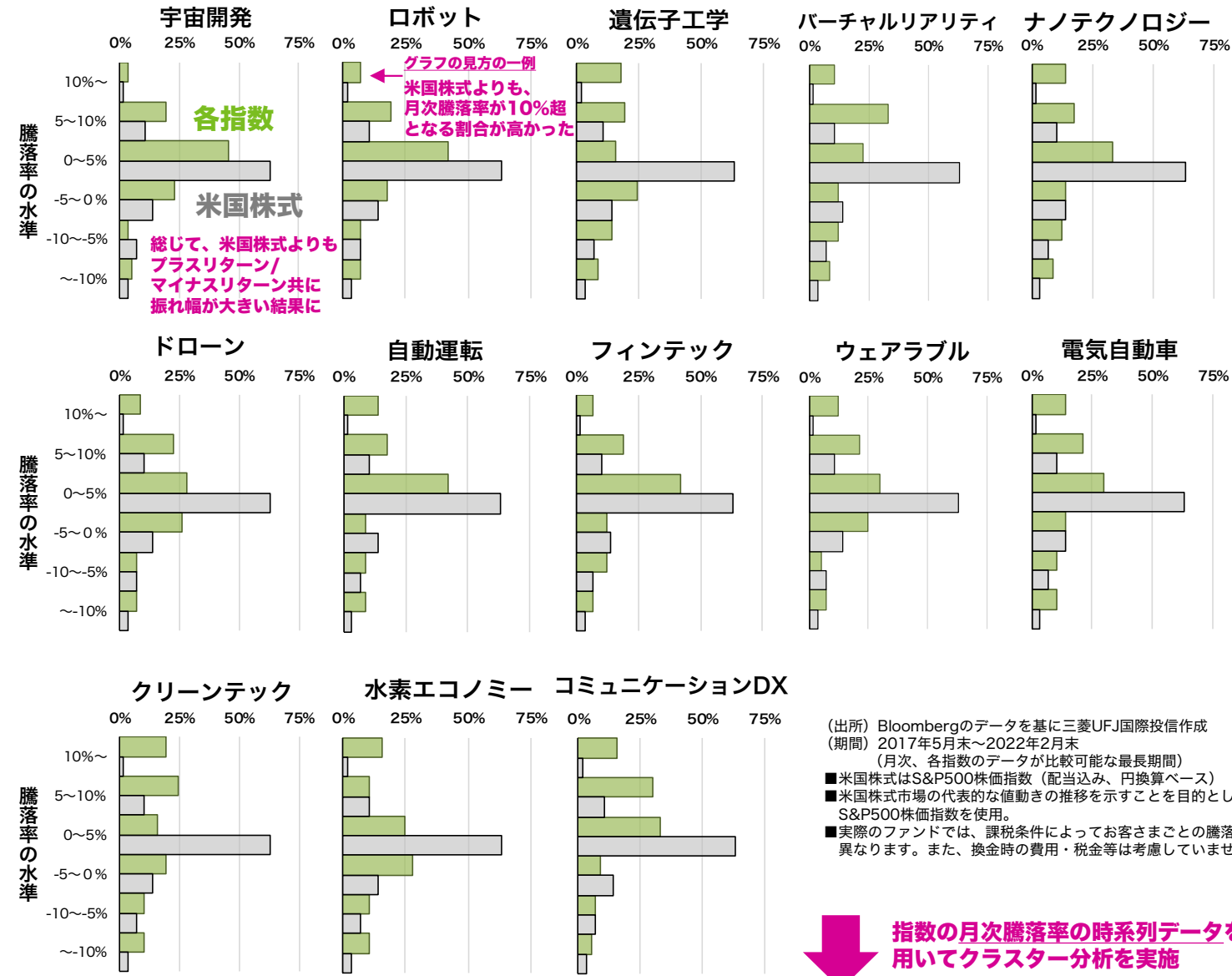
※上記は一例であり、すべてを網羅するものではありません。

【図表2】 世界におけるコミュニケーションの関連アプリケーション市場規模



※コミュニケーションDXとは、企業向けにメッセージ、音声、映像、情報等をクラウド上のプラットフォームとして統合することで業務の効率化等を可能とし、事業活動におけるコミュニケーションの変革をもたらすことをいいます。コミュニケーションDXに関連する次世代の商品やサービス提供を行う企業等をコミュニケーションDX関連企業と呼びます。
■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。※最終面の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」を必ずご覧ください。

指数ごとの月次騰落率出現頻度



ファンドの目的・特色

ファンドの目的

各ファンドはベンチマーク（対象インデックス）の値動きに連動する投資成果をめざします。

ファンドの特色

[特色1] 各ファンドはベンチマークに連動する投資成果をめざして運用を行います。
※各ファンドのベンチマークは以下のとおりです。

ファンド名	ベンチマーク
eMAXIS Neo 宇宙開発	S&P Kensho Space Index (配当込み、円換算ベース)
eMAXIS Neo ロボット	S&P Kensho Robotics Index (配当込み、円換算ベース)
eMAXIS Neo 遺伝子工学	S&P Kensho Genetic Engineering Index (配当込み、円換算ベース)
eMAXIS Neo バーチャルリアリティ	S&P Kensho Virtual Reality Index (配当込み、円換算ベース)
eMAXIS Neo ナノテクノロジー	S&P Kensho Nanotechnology Index (配当込み、円換算ベース)
eMAXIS Neo ドローン	S&P Kensho Drones Index (配当込み、円換算ベース)
eMAXIS Neo 自動運転	S&P Kensho Autonomous Vehicles Index (配当込み、円換算ベース)
eMAXIS Neo ウェアラブル	S&P Kensho Wearables Index (配当込み、円換算ベース)
eMAXIS Neo フィンテック	S&P Kensho Democratized Banking Index (配当込み、円換算ベース)
eMAXIS Neo 電気自動車	S&P Kensho Electric Vehicles Index (配当込み、円換算ベース)
eMAXIS Neo クリーンテック	S&P Kensho Cleantech Index (配当込み、円換算ベース)
eMAXIS Neo 水素エコノミー	S&P Kensho Hydrogen Economy Index (配当込み、円換算ベース)
eMAXIS Neo コミュニケーションDX	S&P Kensho Enterprise Collaboration Index (配当込み、円換算ベース)

※配当込み、円換算ベースの各ベンチマークは、配当込み、米ドルベースの各ベンチマークをもとに委託会社が計算したものです。

[特色2] 主として、米国の金融商品取引所に上場している、日本を含む世界各国の企業のうち、下記に関連する株式等（DR（預託証券）を含みます。）に投資します。

ファンド名	実質的な投資対象
eMAXIS Neo 宇宙開発	宇宙開発関連企業
eMAXIS Neo ロボット	ロボット関連企業
eMAXIS Neo 遺伝子工学	遺伝子工学関連企業
eMAXIS Neo バーチャルリアリティ	バーチャルリアリティ関連企業
eMAXIS Neo ナノテクノロジー	ナノテクノロジー関連企業
eMAXIS Neo ドローン	ドローン関連企業
eMAXIS Neo 自動運転	自動運転関連企業
eMAXIS Neo ウェアラブル	ウェアラブル関連企業
eMAXIS Neo フィンテック	フィンテック関連企業
eMAXIS Neo 電気自動車	電気自動車関連企業
eMAXIS Neo クリーンテック	クリーンテクノロジー関連企業
eMAXIS Neo 水素エコノミー	水素エコノミー関連企業
eMAXIS Neo コミュニケーションDX	コミュニケーションDX 関連企業

[特色3] 原則として、為替ヘッジは行いません。

分配方針

- 年1回の決算時（8月17日（休業日の場合は翌営業日））に分配金額を決定します。
- 分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。（基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。）

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、特色1～3のような運用が行えない場合があります。

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

●価格変動リスク

一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。

●為替変動リスク

組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を大きく受けます。

●信用リスク

組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。

●流動性リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

●特定のテーマに沿った銘柄に投資するリスク

ファンドは、特定のテーマに沿った銘柄に投資するため、株式市場全体の動きとファンドの基準価額の動きが大きく異なる場合があります。また、より幅広い銘柄に分散投資する場合と比べてファンドの基準価額が大きく変動する場合があります。

ファンドは、中小型株にも投資を行うため、大型株中心に投資する場合に比べ、価格変動・信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。

上記のリスクは主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。

●委託会社（ファンドの運用の指図等）

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第404号
加入協会：一般社団法人 投資信託協会
一般社団法人 日本投資顧問業協会

＜ホームページアドレス＞ <https://www.am.mufg.jp/>
＜お客さま専用フリーダイヤル＞ 0120-151034
（受付時間 営業日の9:00～17:00）

●受託会社（ファンドの財産の保管・管理等）

三菱UFJ信託銀行株式会社

ファンドの費用

お客さまが直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	ありません。
換金時	信託財産留保額	ありません。

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

保有期間中	運用管理費用 (信託報酬)	各ファンドの日々の純資産総額に対して、 年率0.792%(税抜 年率0.72%)以内 をかけた額
	その他の費用 ・手数料	次の費用・手数料についても各ファンドが負担します。・監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※上記の費用（手数料等）については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。

販売会社情報一覧（今後、下記の販売会社については変更となる場合があります）

2022年3月4日時点

eMAXIS Neo 水素エコノミー

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会	一般社団法人 投資信託協会
三菱UFJ国際投信株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号		○			○

eMAXIS Neo コミュニケーションDX

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会	一般社団法人 投資信託協会
三菱UFJ国際投信株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号		○			○

※上記以外のeMAXIS Neoシリーズの販売会社は、当社HP（<https://www.am.mufg.jp/>）にてご確認ください。

＜本資料で使用した指数について＞

S&P500株価指数とは、S&P Dow Jones Indices LLCが公表している株価指数で、米国の代表的な株価指数の1つです。市場規模、流動性、業種等を勘案して選ばれたニューヨーク証券取引所等に上場および登録されている500銘柄を時価総額で加重平均し指数化したものです。

MSCI ワールド インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の先進国で構成されています。

eMAXIS Neoの各ベンチマーク（「本指数」）はS&P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社（「SPDJ」）の商品であり、これを利用するライセンスが三菱UFJ国際投信株式会社に付与されています。Standard & Poor's®およびS&P®は、Standard & Poor's Financial Services LLC（「S&P」）の登録商標で、Dow Jones®は、Dow Jones Trademark Holdings LLC（「Dow Jones」）の登録商標です。指数に直接投資することはできません。本商品は、SPDJ、Dow Jones、S&P、それらの各関連会社（総称して「S&P Dow Jones Indices」）によってスポンサー、保証、販売、または販売促進されているものではありません。S&P Dow Jones Indicesは、本商品の所有者またはいかなる一般人に対して、株式全般または具体的に本商品への投資の妥当性、あるいは全般的な市場のパフォーマンスを追跡する本指数の能力に関して、明示または黙示を問わず、いかなる表明または保証もしません。指数の過去のパフォーマンスは、将来の成績を示唆または保証するものでもありません。本指数に関して、S&P Dow Jones Indicesと三菱UFJ国際投信株式会社との間にある唯一の関係は、当インデックスとS&P Dow Jones Indicesまたはそのライセンサーの特定の商標、サービスマーク、および商標名のライセンス供与です。本指数は三菱UFJ国際投信株式会社または本商品に関係なく、S&P Dow Jones Indicesによって決定、構成、計算されます。S&P Dow Jones Indicesは、本指数の決定、構成または計算において三菱UFJ国際投信株式会社または本商品の所有者のニーズを考慮する義務を負いません。S&P Dow Jones Indicesは、本商品の価格および数量、または本商品の発行または販売のタイミングの決定、もしくは場合によっては本商品が将来換金、譲渡、または償還される計算式の決定または計算に関して、責任を負わず、またこれに関与したこともありません。S&P Dow Jones Indicesは、本商品の管理、マーケティング、または取引に関して、いかなる義務または責任も負いません。本指数に基づく投資商品が、指数のパフォーマンスを正確に追跡する、またはプラスの投資収益率を提供する保証はありません。S&P Dow Jones Indices LLCは投資または税務の顧問会社ではありません。免税証券のポートフォリオへの影響や特定の投資決断の税効果の評価は、税務顧問会社に相談してください。指数に証券が含まれることは、S&P Dow Jones Indicesがかかる証券の売り、買い、またはホルドの推奨を意味するものではなく、投資アドバイスとして見なしてはなりません。

S&P Dow Jones Indicesは、本指数またはその関連データ、あるいは口頭または書面の通信（電子通信も含む）を含むがこれに限定されないあらゆる通信について、その妥当性、正確性、適時性、または完全性を保証しません。S&P Dow Jones Indicesは、これに含まれる過誤、遺漏または中断に対して、いかなる義務または責任も負わないものとします。S&P Dow Jones Indicesは、明示的または黙示的を問わず、いかなる保証もせず、商品性、特定の目的または使用への適合性、もしくは本指数を使用することによって、またはそれに関連するデータに関して、三菱UFJ国際投信株式会社、本商品の所有者、またはその他の人物や組織が得られる結果について、一切の保証を明示的に否認します。上記を制限することなく、いかなる場合においても、S&P Dow Jones Indicesは、利益の逸失、営業損失、時間または信用の喪失を含むがこれらに限定されない、間接的、特別、懲罰的、または派生的損害に対して、たとえその可能性について知らされていたとしても、契約の記述、不法行為、または厳格責任の有無を問わず、一切の責任を負わないものとします。S&P Dow Jones Indicesのライセンサーを除き、S&P Dow Jones Indicesと三菱UFJ国際投信株式会社との間の契約または取り決めの第三者受益者は存在しません。

本資料中の指数等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、発行者および許諾者が指数等の正確性、完全性を保証するものではありません。各指数等に関する免責事項等については、委託会社のホームページ（<https://www.am.mufg.jp/other/disclaimer.html>）を合わせてご確認ください。

＜本資料のご利用にあたっての注意事項等＞

○本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した情報提供資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

○本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

○本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。

○投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。

○投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

当シリーズの関連動画コンテンツ

eMAXIS Neo
水素エコノミー/
コミュニケーションDX

**商品性の
ご紹介**



eMAXIS Neo
シリーズを

**マンガで
ご紹介**



eMAXIS Neo
クリーンテックを

**マンガで
ご紹介**



※動画は予告なく削除する場合があります。